

スタイロフォーム™の使用上の注意

近年、発泡プラスチック断熱材の火災事故が増えており、その原因の大半が溶接火花である事が確認されています。下表は過去に発生した火災事故例を示したのですが、これらの事例から工事中の溶接火花が発泡プラスチック断熱材に着火したことが原因で大きな火災事故が発生していることがわかります。

JIS A 9511「A種押出法ポリスチレンフォーム保温板」に適合する「スタイロフォーム」は、燃焼遅延剤を添加することによって微小火源では着火しにくくしてあり、JISで規定する燃焼性に合格するとともに酸素指数が26以上を満足する性能を有しています。これにより、これまでにスタイロフォームの着火が原因となる火災事故は発生しておりませんが、スタイロフォーム自体は燃える性質を有しています。

したがって、保管や施工時、特に新築工事現場や改修工事現場において溶接・溶断等の火気を使用した作業を行う場合は、スタイロフォームに火花が落下・着火しないように不燃性のシートで覆う等、出火防止のために必要な措置を講じて頂くとともに、断熱工事業者以外の設備業者等に対しても積極的に注意喚起を行って頂く等十分に注意して頂けるようお願い致します。

過去に発生した発泡プラスチック断熱材の火災事故例

燃焼部位等	出火原因	作業内容・火災発生状況
現場保管断熱材	溶接火花	作業員が地下で溶接作業中に、積んでいた断熱用の発泡スチロールに着火、延焼。
冷蔵倉庫内壁	溶接火花	建築中の冷蔵倉庫でアーク溶接中、火花がプライマー塗布ロールに着火、さらに内壁の発泡ウレタンに延焼。
老人ホーム壁	溶接火花	老人ホーム新築工事で天井の鉄骨を溶接作業中に火花が壁の発泡ウレタンに着火して約900㎡を焼失。
製氷工場壁	溶接火花	ドアの修理で溶接作業中に壁の発泡ウレタンに着火して約1000㎡を焼失。
パチンコ店天井	溶接火花	パチンコ店改装中に天井溶接作業中の火花が発泡ウレタンに着火して300㎡を焼失。

尚、スタイロフォームとは、スタイロフォームIB, B2, EK-II, EX, RB-GK-II, ATの他、スタイロエース™-IIの全グレードを指します。

この資料に記載しました技術情報は当社の信頼できる実験に基づいたものですが、記載内容通りの性能が保証されることを意味するものではありません。当製品の使用目的、使用条件を十分ご検討の上、ご使用下さいますようお願いいたします。また商品の改良のため予告なく仕様を変更することがあります。詳細はダウ化工機にお問合せ下さい。(☎0120-255576)